同窓会報メールマガジン

第　26 号

機　巣

岐阜工業高等専門学校　機械工学科　機巣会

岐阜高専機械工学科　機関誌　『機巣』2023 年　NO. 26

目次

P-2	目次　&　会長挨拶		
P-3	40 周年に寄せて	桑原　喜代和	（1 期生）
P-5	機械工学科の現状について	山田　実	（24 期生）
P-6	OB 紹介シリーズ		
	株式会社 Deto　恩田多賀雄　（13 期生），恩田昭平　（40 期生），中尾知博　（41 期生）	中尾　賢治	（15 期生）
P-10	継鹿尾山ウオーキングレポート	竹中　信行	（7 期生）
P-11	E&M&A&D ゴルフコンペ報告	太田　哲也	（6 期生）
P-12	若鮎会からの連絡	三口　榮一	（1 期生）
P-16	編集後記		

会長挨拶

飯沼義徳　7 期生

WBC（ワールド・ベースボール・クラシック）では侍ジャパンの活躍と言動、特にラーズ・ヌートバー選手のパフォーマンス「ペッパーミル」が強いワンチームを象徴しています。経済的効果も大きいですが、それよりも日本中を久しぶりに心地よい気持ちにさせてくれました。あらためてスポーツの素晴らしさを認識しています。

政府から新型コロナウイルス対策のマスク着用新指針が発表され、「着用する、しないは個人の判断」・・・学校教育活動では基本的に着用を求めない。今年の入学式、入社式では久しぶりに仲間の笑顔、表情を感じることができます。5月には感染症法上の位置づけがインフルエンザと同等の５類に移行、基本的な感染対策が大幅に緩和されというニュースも心を明るくしてくれます。新型コロナ感染症で制約されてきたこの 3 年間を乗り越えて、従来の普通の生活に戻ることが出来ることをとてもうれしく思います。

さて機巣会として 1 年遅れになりましたが、多くの皆様のご支援で「機巣会 40 周年同窓会」を昨年 11 月に無事開催することが出来ましたことを心より感謝申し上げます。コロナ禍での開催を危惧していましたが、伊津野校長先生はじめ多くのご来賓にご出席いただきました。時節柄、参加者は想定より少なくなりましたが楽しいひと時を過ごしていただけたことと思います。事情があり出席できなかった会員の皆様には機巣会ホームページに動画、静止画をアップしていますので、是非一度ご確認ください。当日のアンケートで頂いた貴重なご意見を機巣会ホームページ、機関誌（メルマガ）に反映していく所存です。今後の機巣会の活動にご期待ください。機巣会が 50 周年、100 周年と発展するため引続き皆様のご支援をお願い申し上げます。

機巣会４０周年によせて

桑原 喜代和

昨年１１月の機巣会４０周年同窓会において初代会長の井坂一男さん、４代会長の廣島二郎さんと共に２代目会長の私も功労者として表彰していただき、ありがとうございました。

機巣会の立ち上げ時は、母校に戻られた２期生の大野武久さんのお力によるところが大きく、我々は大野先生の言われるままにしていたような状況でした。毎年、正月明けの休日に役員と各年度の幹事が集まって会議をしていましたが、みなさんは社会人としての生活に忙しく、同窓会の活動をすることは難しい状況でした。そのような中でも大野先生のご尽力により、昭和５５年（1980）に機巣会が発足し、５７年春に会誌の創刊号を発行し、昭和５９年秋（1984）には第２号を発行しました。その後、平成２年（1990）夏、広島会長の時に創立１０周年の総会を行ったのを最後に機巣会の活動は停止してしまいました。

２０１２年、翌年の岐阜高専の創立５０周年に向けて若鮎会を中心とした創立５０周年記念事業実行委員会が開かれ、各学科の代表が集まり、事業内容の検討と自学科の会員への連絡を行うことになりました。この時、機巣会活動の必要性を痛感し、機械工学科の卒業生名簿の見直しから機巣会の活動を再開しました。５０周年記念式典に続き、２０１６年春には機巣会３５周年総会を開催することになり、以降、メルマガの発行を中心として機巣会活動を続けています。機巣会のホームページを作りましたが、見に来てもらえないと意味がないことからメルマガを作ろうと話し合ったことを思い出します。昨年の４０周年同窓会は飯沼会長のもとでコロナ禍にもかかわらず盛会に終わり、これからも機巣会の活動が続いて行くものと期待しています。
次の４５周年、それまでにもいろいろな催しを行ってもらいたいものです。出席するだけでなく、主催する側にも積極的に入り、もっともっと楽しく、意義深い機巣会にして下さい。

機巣会３５周年を前にして、若鮎会、機巣会の活動に尽力された大野先生は亡くなり、３５周年総会では感謝状を贈りましたが、とても寂しく、残念に思っています。

５０周年の委員会で一緒になった電気工学科のＯＢと岐阜高専の産学官連携事業として地元企業の人材を育成する研修を始めました。最初は岐阜県や経産省の委託を受けて始めましたが、その後、岐阜高専と地元企業とが連携する地域連携協議会の事業として続けています。今では講師を務める機械と電気のＯＢは１２名となり、新入社員を対象としたスタートアップコース、中堅社員のベーシックコース、アドバンスコースの３

つのコースで２５の講座を開催しています。後期高齢者になる１期生からまだ現役の２０期生までの多彩なメンバーが集まっていますが、高齢者と替わってもらえる新しい方々を募っています。

一方、現役の頃から地元企業に勤めていたこともあって橋浦先生に依頼され、在学生に向けての非常勤講師をさせてもらっていました。その後、同じ会社の後輩や中核人材育成塾の講師に引き渡しています。他にも機械工学科だけでなく、専攻科の非常勤講師をしているＯＢもあり、機巣会会員の方々に引き継いでもらいたいと願っています。

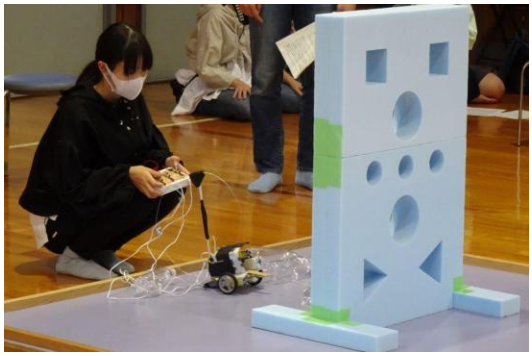
最後に、機巣会の皆さんが現役時代の経験を活かして研修事業の講師や非常勤講師になっていただくことを望んでいます。会社生活は定年になって一区切りですが、その後にもいろいろとやることはたくさんあります。機巣会のご縁により私よりも若い会員の皆さん方とのお付き合いを楽しみにしています。

機械工学科の現状について

機械工学科　山田実

岐阜高専内では伊吹および４号館の改修工事が進み，３月には工事が終わるとのことです．外見はさほど変わっていませんが，中はガラッと変わるようです．食堂，保健室，学生相談室など学生の福利厚生施設としての役割は同じですが，機器分析室が以前より広くなり企業に使ってもらえるような分析装置も増えます．

【機械工学科公開講座】



機械工学科が主催する公開講座として毎年，全日本小中学生ロボット選手権岐阜地区予選会を開催しています．これは和歌山県が１２月におこなうきのくにロボットフェスティバルの一環として行われるロボット競技会の地区予選です．小学生部門と中学生部門があり，全国で 6～700 名の児童，生徒が各地（主に高専）で予選をします．

今年度は２０２２年８月７日（日）にロボット組み立て講習会，１０月９日（日）に競技会を行いました．過去にこの大会に出場して岐阜高専に入学した学生も含めた学生スタッフ１６名がお手伝いしてくれました．参加者はロボット講習会への参加申し込み者が小学生部門２８名，中学生部門１６名，そのうち競技会への出場は小学生部門１５名，中学生部門５名でした．機械工学科 OB のお子さんの参加もありました．　競技内容は小学生部門が洗濯ばさみを台の上に運んで載せる競技，中学生部門はペットボトルをつかんで壁の穴に差し込む競技でした．どちらも例年よりも競技内容が難しく参加者は高得点を目指して苦労されていました．そのなかで岐阜地区から小学生部門で代表となった２名の内おひとりが全国３位，中学生部門で代表となった２名の内おひとりが全国３位，イノベーション大賞（近畿経済産業局長賞）を取られました．この大会を通して児童・生徒さんにものづくりの面白さを体験してもらえればと思っています．

地区大会の開催にあたり機巣会からスタッフのお弁当代の援助をいただきました．この場をお借りしてお礼申し上げます．

【第３学年研修旅行】

２０２２年１１月９日（水）に機械工学科第３学年の研修旅行がありました．行き先として午前中に日本車輌製造株式会社豊川製作所，昼食場所に刈谷ハイウェイオアシス，午後は名古屋のトヨタ産業技術記念館に行きました．日本車輌製造では主に N700 系新幹線の組み立て工程を見させていただきました．普段は見ることのできない車体の下側や先頭車両の「鼻」が開いたところ，椅子などの内装が取り付けられる前の状態など興味深く見学していました．指差し呼称をしながらの見学や多くの組み立て部品や工具の管理など普段の実習だけでは体験できないことを学べたと思います．

OB紹介シリーズ

事業家親子+後輩で躍進中！

株式会社 Deto
代表取締役社長　恩田多賀雄（13 期生）
取締役　経営企画室　室長　恩田昭平（40 期生）
経営企画室　中尾知博（41 期生）

OB 紹介シリーズ担当筆者が 15 期生ということもあり、今まで紹介してきた OB は岐阜高専創設期に近い方々が中心だった。岐阜高専も既に創立 50 周年を迎えているので、若くして活躍している起業家・事業家が誰かいるだろうと思い、筆者の近所に住んでいる卒業生の中尾知博さんを訪ねた。そうしたら、中尾知博さんの勤務先の社長および上司（社長の長男）ともに、機械工学科卒業生とのこと。なんと社長は筆者学生時代からお名前はよく存じ上げていた恩田多賀雄さん。この偶然性には何か不思議な縁というものを感じるとともに、休日で寛いでいる時間を空けて貰い、会社を訪問した。訪問先は、先代から引き継がれている美山町（現山県市）の工場ではなく、高層ビル群が目立つ岐阜駅前にあるビルだった。

今回の取材では、社長、役員、社員の枠を超えて、ざっくばらんにお互いのことや、人生、会社、高専を語ってもらった。

Deto 本社が入居する大樹生命ビル

玄関ホールの案内板（本社は 7 階）

、

ーまずは、現在に至るまでの道のりや、これからの夢について

恩田多賀雄さん：

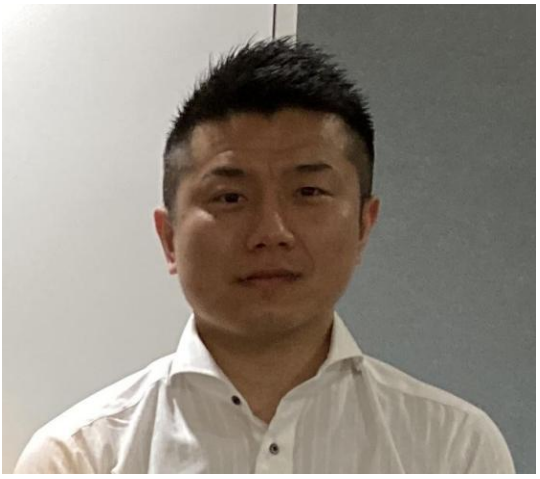
私は高専卒業後、実家の工場（出戸水栓）に入りました。ある朝突然、26 歳のときだったか、父親（前社長）に前触れもなく銀行に連れて行かれ、「今日から息子が社長だ」と支店長に宣言されました。いつかはと思っていましたがこれには驚きました。会社は 15 人くらいの規模で、母や姉が経理をやっているという典型的な家族経営の町工場でした。生産量は小規模で、月生産量 20 トン程度の水栓（銅合金）であったこともあり、完全に会社を任されてしまいました。

経営をやっていていろいろありましたが、一番の打撃は、30 年前の大手取引先からの受注の全面ストップでした。売上げの９０％はここの温水器の水回り部品だったのですが、92 年に完全に止まった。この経営危機という状況の中で、藁にもすがる思いで稲盛和夫氏主宰の盛和塾へ入って指導を受けて復活したということが今日の経営の原点でもあります。それからここ 20 年くらいの間に業態転換を行い、今はファブレスにて水周りの OEM/ODM 製品を中心に経営しております。これらを拡大するとともに、手法はいろいろありますが、企業再生や支援を軸としてやっていきたいですね。

恩田昭平さん：

高専卒業後は進学し、新潟大学へ編入、経済学部経営学科へ入りました。大学卒業後、東京の不動産会社で３年間営業をやっておりましたが、父親（社長）から会社を手伝ってほしいということで、（株）Deto へ入社した次第です。

中尾知博さん：



私は多方面、多業種でいろいろ経験させてもらいました。高専卒業後は、一旦、工作機械メーカーの森精機製作所へ入社しましたが、もっと勉強がしたかったし、教員免許も取得して教育に携わりたかったので信州大学へ編入しました。大学では理学部で物理を専攻しましたが、卒業後はスポーツ用品販売会社（ヒマラヤ）に入社し経営企画を、その後、生命保険会社（メットライフ生命）で、という具合にメーカー以外の仕事を４年ほど続けておりました。このとき転職サイト（ビズリーチ）に登録していたのですが、偶然、（株）Deto からスカウトされ、昨年から立ち上げられていた経営企画室のメンバーとして入社しました。おそらくタフさやホスピタリティが求められていたのだと思います。

、

ー高専卒業生が３名、上下・親子関係はありますが、それぞれのすごい所、直して欲しい事などを率直に

恩田多賀雄さんから：

経営企画室長の恩田昭平さん、中尾知博さんへ

経営企画を楽しそうにやりがいを持ってやってくれていることが大変いいですね。二人とも高いレベルの期待に応えてくれているのがすごい。今のままどんどん楽しんで欲しい。

恩田昭平さんから：

社長の恩田多賀雄さんへ

田舎の工場を若くして継いだ社長なのに視野が広いと感じています。また年齢以上に学ぶ姿勢、明るく取り組むことがすごい。みんなが良くなる、お客さんが良くなるにはどうしたらいいか、という経営（稲盛さんから学んだことをどうしたら広められるか）の視点を常に持っているところは尊敬以上です。

中尾知博さんへ

高専卒業生として見ても、苦労をいとわないところ、人がいいところがすごいですね。人を助けることを前向きにできる。機械工学科とは思えない、IT・経済における明るさ、ロジカルシンキングができることなど、今までの経歴が生きていると思っています。ただ逆に、体を壊さないよう無理するな、と言っています。

中尾知博さんから：

社長の恩田多賀雄さんへ

社長はいい人だと思っています（笑ではなく真面目に）。中小企業の社長として、理念を取引先に実践されているところが尊敬できます。それも稲盛さんの意を汲んでボランティアでやっている。また、情報収集も、YouTube で取り込むなど、年齢を感じさせない若さがあります。

経営企画室長の恩田昭平さんへ

もともと高専卒でスペック的には同じはずなのに頭の回転が速い。でも仕事をしすぎて、あまり無理をされないように申し上げています。

ー高専時代の学生生活で役に立ったことや、是非とも後輩に一言を！

恩田多賀雄さん：

川本先生の下でのバスケット、それに寮長をやったことですね。

寮生活（15-20 歳）では、同じメンバーで学べることは面白い。素晴らしいので楽しんで欲しい。入学時には、生徒ではない学生です、学生として扱います、と言われたことが印象に残っています。時代に合わせて新しいことに大人（学生）としてトライしてほしい

恩田昭平さん：

寮で IT を学んだことですね。電気工学科や電子制御工学科の同級生がいたので、PC 関係、情報について勉強できました。またクラブ活動では柔道を山本先生の下でやったことが今に生きていると思っています。

高専生には夢を持って可能性を追ってほしいし、いろいろアウトプットしてほしい。理数系が好きだから高専というだけでなく、価値を高めることを前向きに。

中尾知博さん：

機械科ながら情報を勉強できたことがよかったです。自分に情報工学は向いている、面白いことが分かったし、森精機でもプログラミングをやりました。

私は高専制度が、道を狭めるリスクもあると思っている時期がありました。でも、高専には価値がある。編入でもいいし、１年から大学へ行ってもいい。将来の可能性は無限です。

ー会社に限ったことではなくてもいいので夢などを語ってください

、

恩田多賀雄さん：

今の Deto は水回りの OEM/ODM が軸。拡大していくのと同時に、手法はいろいろあるが企業再生、支援を軸としてやっていきたい。

恩田昭平さん：

私は歴史小説が好きですから、世の中に、歴史に残るようなインパクトを与えたいと思っています。中小企業の支援もこれからの事業として手がけていきたい。

中尾知博さん：

岐阜高専卒業というバックボーンを持ちながら、いろいろ経験してきました。こうした多角的視野で経営を助けられたらいい。教育にも興味があります。未来の日本を良くしたい、明るくしたい、というのが想いです。

ー取材を終えて

今回は、機巣 OB 紹介シリーズ初、３人の卒業生に同時に登場してもらった。そのうち２人は親子だが、学校も創立 50 年、60 年を迎えると、めずらしいことではない。いずれは孫を含めた３世代での活躍が見られるかもしれない。印象に残ったのは、取材中、趣味は？と尋ねたときに、皆さん、開口一番「仕事（笑）」と答えられた事。会社の危機で助けてもらった恩を企業再生や企業支援で返し、日本を良くし、明るくする、という夢が仕事なのであろう。ちなみに、恩田多賀雄さんは山登り、恩田昭平さんは高専同級生との月１回のキャンプ、中尾知博さんはロードバイクを楽しんでおられるとか。３人のこれからの夢の続きを楽しみにして、本社が入居するビルを後にした。

（文責：15 期生 中尾）

取材後、ロビーにて
（右から、中尾知博さん、恩田多賀雄さん、筆者）

＜会社情報＞　（株）Deto
https://deto.co.jp/

＜恩田多賀雄さんが取り組む企業支援関連情報＞
始道塾　https://www.yokunare.jp/

、

4

継鹿尾山～鳩吹山　縦走　ウォーキング　リポート ２月４日（土）実施

参加者：6M　巾（先達者）、6M 太田、7M 藤嶌　7M 西村、7M 竹中、丹羽（西村さん友人）　計６名
工程　：9 時犬山遊園駅集合後スタート　～　継鹿尾山（273m）　～　第 3 第５山を登り下り　～　石原登山口　～　西山（339m）　～　鳩吹山（313.5m）　～　カタクリ登山口に下山　～　16 時半　湯の華温泉（スーパー銭湯）到着
天気　：　　晴れ

　集合場所には登山部のジャージを着た 10 人ぐらいの高校生とファミリーが集まっていた。どうやら同じ方面に進むようで、我々は他のグループの後塵を拝し出発した。車道を進み寂光院入口（集合写真）から石段を登り、今回ルートで唯一のトイレで休憩し、見晴らし台で犬山城、小牧城を眼下に「信長も見たであろう」景色を楽しんだ。

　さてこれから登山道を行くのだが、「東海自然歩道」ルートなので、階段状に整備されていた。しばらく上り下りが続き、汗をふきながら継鹿尾山山頂に着いた。見晴らし台では　先陣の高校生登山部のグループがリュックを開けており、もしかしてここが目的地？と思いつつ、我々は次の目的地に出発したが、アップダウンがきつく、階段の高さが普段の 1.5 倍あり、スローペースになり、遅れる参加者を待つことしばしあった。

ようやく石原登山口まで下りたところで、西村、丹羽２名が別ルート（東海自然歩道）を選択し眞禅寺方面に向かい湯の華温泉で合流することになった。
我々は、石原登山口から再び登り始め、見晴らしがよい大平山三叉路で昼食（皆さんからおやつを頂き元気が出た）をとり西山に向かった。
西山までのルートもアップダウンがきつかったが、鳩吹山に行く頃はハイキングのファミリーとすれ違うこともあり、また走っていくアスリートに追い抜かれこともあった。

鳩吹山からカタクリ登山口まで下山するころは、足がパンパンで階段を一歩一歩ゆっくり下りてきた。藤嶌さん情報では、この下山道の１部が滑りやすく、けが人が出たとのことでした。
巾さんは可児方面から鳩吹山に登り、初日の出を見るのが行事になっているそうです。湯の華温泉で風呂と生ビールで救われた１日でした。（歩数は 22.600 歩）

余談：私の新入社員のころ、会社の先輩と槍ヶ岳、剣岳、北穂高岳　3000m超の登山経験と、仕事で行ったボルネオ島のキナバル山 4000m超に行った経験を吹聴していました。また、高専時代に登山部の電気科の学生と事務員が転落死

亡事故の悲しい思い出が蘇りました。

レポート：7M　竹中信行

E&M&A&D　ゴルフコンペ　　3月24日

ぎふ美濃ゴルフ倶楽部　　参加者　　１４名

・3M　青木健、向井軸郎　6M　飯田武志、太田哲也、白木義高

・7M　飯沼義徳、竹中信行、寺倉敏明、山田錦吾　9M　熊田進、若井政伯

・3E　坂井善幸　　・2A　瀬戸勉　　・2D　土屋淳

いつも雨天のこのコンペですが当日は暖かくゴルフ日和でした。

和気あいあいと先輩後輩の隔てもなく、楽しいひと時でした。次回は5月か6月です。

令和 5（2023）年 2 月吉日

岐阜高専 OB・OG の皆様へ

岐阜高専同窓会 若鮎会

“創立 50 周年記念”碑、“若鮎の並木”碑などの清掃のご案内

岐阜高専 OB・OG の皆様におかれましては、寒さが続く毎日ですが、お元気でお過ごしのことと存じます。日頃は若鮎会の活動にご理解とご協力を頂き有難うございます。

平成 25(2013)年 4 月の岐阜高専創立 50 周年には、記念式典が挙行され、若鮎会は下記の通り各種記念碑の設置・植樹を行いしました。

・2013 年 4 月、若鮎会は開校の地各務原市鵜沼に、①**「岐阜工業高等専門学校発足の地」碑**、岐阜高専内に、②**「創立 50 周年記念」碑**を設置
・2015 年 3 月 、各務原市鵜沼の木曽川河畔に創立 50 周年の**記念植樹**（**「若鮎の並木」と命名**）
・2016 年 2 月、 若鮎会創立 50 周年記念として**「若鮎の並木」**に③**「若鮎の並木」碑**設置

いずれも多く OB・OG のご参加を頂き誠にありがとうございました。**「若鮎の並木」の木々**は順調に成長しておりますが、並木をよりよくしていくため、毎年並木の草取りを行い、昨年までに 100 名余の多くのご参加を頂き感謝申し上げます。

さて、**今年は岐阜高専創立 60 周年**に当たります。これを踏まえ、上記①、②、③**の記念碑**とその周りの**清掃(草取り)**を下記の通り計画しましたので、ご案内申し上げます。

ご多忙とは存じますが、**3 月 31 日まで**に各科 OB の連絡担当者へ、ご参加のご連絡頂きますようお願い申し上げます。

なお、年齢的な要素も影響しているようで、参加者の多くは 1 ～3 期生ですが、こうした節目に、学年や科を越えて顔を合わせることも同窓会活動の一環として意味があるように思えます。どうか皆様、世代を越えてお声がけをして、参加頂くようにお願い申し上げます。

記

1. 日時　令和(2023) 5 年 4 月 22 日（土）　午前 9 時 30 分～午前 12 時 30 分（**少雨決行**）

A）　③**「若鮎の並木」碑**と**「若鮎の並木」**の清掃　9：30 ～ 10：00　（各務原市内）
B と **C** へ車で移動

B）①**「岐阜工業高等専門学校発足の地」碑**と周りの清掃　10：10 ～ 10：30　（各務原市内）
C へ車で移動

C）②**「創立 50 周年記念」碑**と周りの清掃　11：30 ～ 12：00　（岐阜高専内）
A からの直行者は先行

D）　参加者で食事（懇親会）　12：00 ～ 12：30　（岐阜高専内）

※参加者は希望のものだけに参加（全部の参加も OK）

2. 参加される方のご連絡方法などについて

参加される方は各科連絡担当者へご連絡をお願いします。

各科の連絡担当者：各科同窓会担当者（若鮎会事務局）

持ち物　　：手作業の草引き道具&雨カッパ（小雨時）

支給予定品　　：手袋、ビニール袋、お茶

連絡内容　　：参加される方の卒業の学科・年次、お名前および

前頁の **A、 B 、C 、D** の内、**参加するもの、**

連絡期限　　：令和(2023) 5 年 **3** 月 **31** 日（金）

3. 集合場所について

A)「若鮎の並木」碑と「若鮎の並木」の清掃・・・**碑の前**

※駐車場は**別紙 1** の駐車場案内図をご覧ください

B)「岐阜工業高等専門学校発足の地」碑と周りの清掃・・・**碑の前**

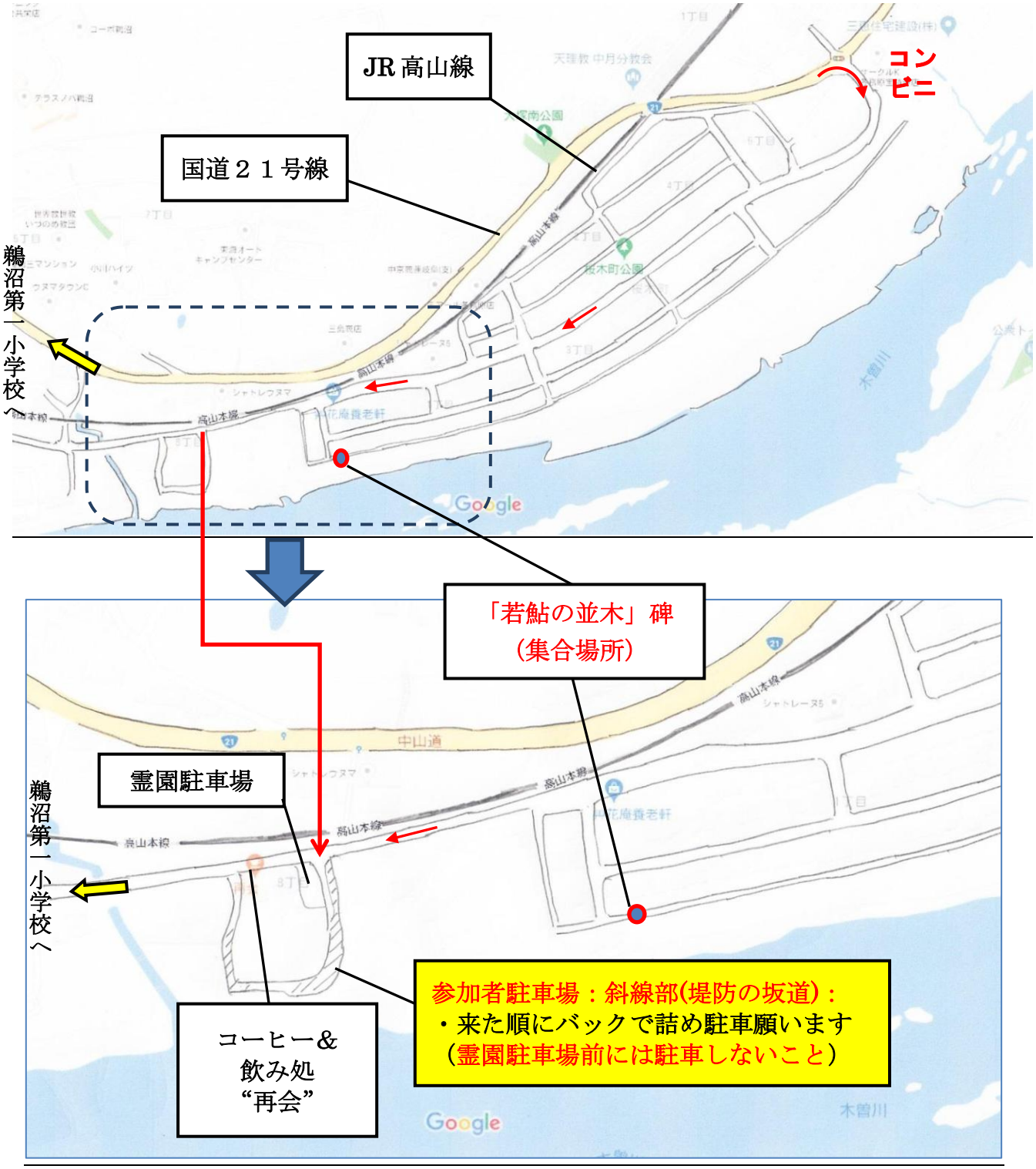
※駐車場は**別紙 2** の駐車場案内図をご覧ください

C)「創立 50 周年記念」碑と周りの清掃・・・**碑の前**

以上

別紙 1

「若鮎の並木」と「若鮎の並木」碑の清掃時の駐車場案内図



別紙 2

「岐阜工業高等専門学校発足の地」碑清掃時の駐車場案内図

鵜沼第一小学校
・岐阜県各務原市鵜沼西町
　4 丁目 179 番地
・電話　058-384-0015

・送迎用の車や園児に注意下さい
・車は奥から駐車下さい

編集後記

編集委員
6M　太田哲也

岐阜高専を卒業して 50 年経ちます。卒業式の記憶は今でも残っています。噴水の前でみんなと記念撮影をしたのはついこの前のようです。こうして機関誌の編集に関わっているのも不思議な気がします。同窓会が盛り上がって青春時代を思い出してくれる機関誌になればよいと思います。皆さんからの記事を募集しています。

9M　若井征伯

コロナで、行けなかった海外出張の予定がびっしり詰まっています。８日から 15 日までイスラエルに行ってきました。

9M　熊田　進

国の補正予算で「高等専門学校スタートアップ教育環境整備」に 60 億円が充てられるそうです。高専生社長もTV等で紹介されていました。自分のアイデアを実現できる。素晴らしいことですね。

１５M　中尾賢治

確定申告の準備が済んでほっと一息ついてます。毎年、正月が来たら準備しなければと思ってからすでに 30 年程度経過してます。性格はなかなか改善されないものです。

２４M　山田　実

３月２７日に「BS よしもと」のチーキーズ a GoGo!という生番組で岐阜高専と鳥羽商船高専が学校自慢で対決しました。私が顧問をしているレゴ同好会も出演しました。見逃しWEB 配信もされていますので検索してみてください。

編集委員　募集　！

機関紙作成の協力していただける方を募集しています。原稿の校正、記事の構成が主な作業です。発行前に打合せをします。主にメールで作業しています。

興味のある方は太田までメールください。　tetsuya-ota@core-cprp.jp

発行日／２０２３年３月２９日
責任者／飯沼義徳　**発行／岐阜工業高等専門学校機械工学科同窓会「機巣会」編集室**
〒501-0495　岐阜県本巣市上真桑２２３６番地２
TEL　058-320-1343　　FAX　058-320-1349
http://gifu-nct.com/